

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

文学国語	単位数	4単位	学科・学年・学級	
------	-----	-----	----------	--

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 使用教科書など

使用教科書	東京書籍「精選文学国語」(文国 002-902)
副教材など	「精選文学国語 学習課題ノート」(準拠ノート) / 「新総合図説国語」 / 「ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」 / 「常用漢字の標準演習 改訂版」 / 「常用漢字の標準演習 改訂版」 / その他、QR コンテンツ (教科書)、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

3 評価の3観点と学習指導要領との対応

平成30年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つとなった。

学習指導要領との対応は以下のとおりである。

- ・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。
- ・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の2つの側面を評価することが求められている。
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。
 - ②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

4 「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

- ・学期と各編の単元番号と名称、配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

- ・領域（書く／読む）、教材名、ページ数、配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

[知技] …… 「知識及び技能」の指導事項

[思判表] …… 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

⊕ …… 「思考力、判断力、表現力等」の言語活動例

《学習目標》

- ・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

- ・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

* …… 指導上の留意点や別案

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。
- ・「知識・技能」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて、文末を「～している。」とした。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて、冒頭を「（領域名）において、」として領域を明示し、更に文末を「～している。」とした。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は、扱っている全ての指導事項について設定した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、次の4つの内容を全て含め、各教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫しながら設定している。また、文末は「～しようとしている。」とした。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

[知技] …… 「知識・技能」の評価規準例

[思判表] … 「思考・判断・表現」の評価規準例

[主] …… 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例 《部分サンプル》

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
■ = 学期				
I 部 4 小説2 (=月)				
読む 山椒魚 P62 【文学への扉2】 小説は誰のものか P96 3時間	[知技] (1)ア、イ (2)ア、イ [思判表] 読む こと(1)ア、エ [知技] (1)エ [思判表] 読む こと(1)オ	・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。	<第1時> 1 井伏鱒二や「山椒魚」について、教科書の作者紹介などを参考にして、知っていることを発表する。 2 山椒魚の心情や行動に注意しながら本文を通読し、あらすじをつかむ。(手引き1) 3 第一段を読んで、語句や表現に留意しながら、岩屋に閉じ込められた山椒魚の置かれた状況やその心情を読み取る。(手引き2) 4 第二段を読んで、岩屋の内外の動植物の様子についてまとめ、それぞれに対する山椒魚の気持ちを整理する。(手引き3-1・3-2・4-1) <第2時> 1 第三段を読んで、小えびの侵入に伴う山椒魚の心境の変化と、その後の山椒魚の行動を読み取る。(手引き4-2) 2 第四段を読んで、岩屋の外に出られない山椒魚が、外に出られないことを嘆き、岩屋の外の世界で遊ぶ小動物の様子を、感動の瞳で眺める様子を読み取る。 3 第五段を読んで、岩屋の窓から紛れ込んだ蛙を外に出ることができないようにした山椒魚と、閉じ込められた蛙との激しい口論の様子を読み取る。 4 第六段を読んで、一年が過ぎ、鉾物から生物によみがえった山椒魚と蛙が、口論を続ける様子を読み取る。 5 第七段を読んで、更に一年が経過した山椒魚と蛙の様子に見られる変化を読み取る。	[知技] ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 [主] 粘り強く登場人物の心情を把握し、学習課題に沿って作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら文章にまとめようとしてい

			<p>6 山椒魚と蛙が歩み寄りを見せ、和解に向かう経過について整理する。(手引き5)</p> <p><第3時></p> <p>1 この作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら、六百字程度の文章にまとめる。(言語活動)</p> <p>2 グループで発表し、感想を伝え合う。</p> <p>3 【文学への扉2】「小説は誰のものか」を読み、作者自身による改変について理解する。</p> <p>4 作者が削除した部分がある場合とない場合を比較して、その部分が持つ意味を考える。</p> <p>5 作者が削除した部分がある場合とない場合では、どちらが今の自分にとって納得がいく作品になるか、理由とともにまとめる。</p> <p>6 「小説は誰のものか」について、自分の考えをまとめる。(【文学への扉2】小説は誰のものか)</p>	る。
<p>書く</p> <p>【言語活動】</p> <p>小説を創作する</p> <p>P44</p> <p>8時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア</p> <p>④ 書くこと(2)ア</p>	<p>・何をどのように書くかということに注意し、表現したいことを明確にして、小説を書く。</p>	<p><第1時></p> <p>1 本文を読み、小説を創作する際の手順を理解する。</p> <p>2 自分が表現したいことを考える。</p> <p>3 大まかなストーリー、登場人物、時間と場所、人称と視点をどうするかを考え、メモを作る。</p> <p><第2～6時></p> <p>1 メモをもとに「何を書くか」「どのように書くか」を意識しながら創作する。</p> <p>2 創作したものを推敲し、更に練り上げる。</p> <p><第7～8時></p> <p>1 グループに分かれ、友達の小説を読み、よかったところや疑問に思ったところなどを伝え合い、互いの小説を批評する。</p> <p>2 友達の批評を参考に、手直しする。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、文学的文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 <p>[主] 積極的に「何をどのように書くか」を明確にして、今までの学習を生かして工夫しながら小説を書き、推敲したり他者の批評から手直ししたりして、小説を創作しようとしている。</p>